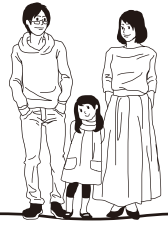


こんな出来事ありました



# コンデキ



01

## 持続するまちづくりに向けた協定締結式 笠間市・東日本旅客鉄道株式会社水戸支社



▲左から、山口市長、雨宮執行役員水戸支社長

01

県内初。持続するまちづくりへ  
包括連携協定締結

6/1

市と東日本旅客鉄道株式会社水戸支社が、人口減少を背景に課題が山積する地方都市の持続化・活性化を図るため、県内で初めて包括連携協定の締結を行いました。

当初は、双方の資源を生かした連携として、交流の拠点となる「道の駅」の誘客促進や、栗を中心とした農業・観光振興の活動を実施していきます。

- 連携5項目
- 観光・ツーリズムの振興
  - 地域の食・芸術文化の振興及びブランドの創出
  - 公共交通、駅及び市内交流拠点の活性化
  - スマートシティの構築
  - 地方創生に資する取り組み

02



▲電動ろくろで笠間焼の器を作る様子

02

## 笠間焼を「JAPAN ブランド」として海外へ

笠間焼の海外販路開拓プロジェクト「多様性と創造性を持つ笠間焼が英国産地とつくるブランド確立事業」が、JAPANブランド育成支援等事業に選定されました。

この支援事業は、全国展開や海外展開、インバウンド需要の獲得のために、販路開拓・ブランディングなどの取り組みを中小企業庁が支援するもので、721件の応募があり、そのうち192件が採択されました。

プロジェクトでは、笠間焼協同組合が組織する「笠間焼海外販路開拓協議会」が、陶芸作家が輸出に挑戦できる仕組みづくりを行いながら、イギリスをターゲットに笠間焼のブランディングと販路拡大を行っていきます。

5/15



03



▲お届けした KASAMABOX

## 03 笠間の味を詰め込んだ KASAMA BOX

5/14 ~ 6/30

新型コロナウイルス感染症の影響で、アルバイト等ができず生活に支障をきたしている学生の皆さんに、笠間市の農産加工品などを詰め合わせた「KASAMA BOX」を無料でお届けしました。

## 04 不登校児童生徒に対する 支援を考える

5/22

今年度から新たに設立されたこども育成支援センターで、「不登校児童生徒の支援の在り方」をテーマに研修会が開かれ、市内小中学校の生徒指導主事や適応指導教室「ここから」の担当者など約40名が参加しました。

講師の金丸准教授は「学校復帰を目標にしてしまうと、子ども達は、学校に戻れない間はずっと劣等感を背負ってしまう。大切なことは社会的に自立できるように支援することで、どうやって学校以外で学ぶ場を提供してあげられるかです。」と話されました。



▲講師の金丸さん（茨城大学大学院准教授）



▲式典で挨拶をするキャノンモード(株)代表取締役社長 斎藤さん

茨城中央工業団地笠間地区内で、キャノンモード株式会社新工場の起工式式典が行われました。

キャノン株式会社とキャノンモード株式会社は金型事業拡大に向け、キャノンモードが笠間市内に持つ6か所の工場を集約、刷新するため今回の新工場建設が計画されました。

市では県と連携しながら、交通ネットワークの充実や首都圏に近い地理的条件等の優位性を生かし、新たな産業拠点の形成に向けた企業誘致の強化を図っています。

キャノンモード株式会社新工場起工式

6/2



▲講師の吉崎さん（笠間市教育委員会教育委員・横浜国立大学客員教授・日本女子大学名誉教授）

反転授業（笠間モデル）を身に付けるための研修会が行われ、小中義務教育学校の先生 30名が参加しました。

反転授業とは、授業に先立って自宅で動画などで学習し、授業で知識を確認し、「使うことで学ぶ」活動を行う新しいスタイルの授業です。

講師の吉崎先生は「知識や技能は使うためにあります。反転授業をすることで、子どもたちが休校中に動画で学んだ知識を、授業で主体的・対話的に深く学ぶことにつなげていくことができます」と話されました。

反転授業で新しい学習様式を身に付けよう

5/28